

一の宮巡拝

一の宮巡拝会 発行人 関口行弘

事務局：兵庫県川西市大和東2-13-10 創房関宮(有)内
 電話：072-791-5158 FAX：072-791-5159
 E-mail：junpai@sekinomiya.com

一の宮巡拝(自分探しの旅)

今年は例年にない異常気象である。年初から寒い日が続きようやく春の訪れを待ち望んでいた矢先の3月11日、東日本大震災が起こった。その未曾有の被害の大きさには言葉を失った。被災された方々へのお見舞いとお悔やみを謹んで申しあげる次第であります。一日も早い復興を心からお祈りいたします。

当巡拝会では3月20日～21日に関東ブロック交流会と、会報の第1号から連載してきた郡順史先生著 小説『橘三喜』の単行本上梓のお祝いをおこなった出版記念報告祭を予定していましたが、東北道が不通になり、東日本の被災が予想を超え、深刻なことから中止を致しました。

また、引き続き5月末に予定していた全国交流会諏訪大社巡拝も延期することになりました。震災から2ヶ月余りを過ぎましたが今も余震が続いている状態であり、まだまだ

気持ちが落ちつきません。震災後二度東京に行きましたが、日本での観測史上最大の地震は、震源地から遠く離れた東京での都市機能をマヒさせ、数時間を費やして帰宅した人や会社に泊まった人など大きな被害がありました。またパンなどの主要な食料品や水、乾電池、ガスボンベがまたたく間にお店から消え、地震の恐ろしさを東京の友人から聞きました。さらに新宿や銀座の街並からショウウィンドウの照明が消え東

京が暗くなったと彼らは言います。しかし人通りが少なく、夜も薄明かりで空は暗く霞んでいる様子を見ると、なんとなく自然で東京の夜景の良さというものを逆に感じたように思います。今までとは違った雰囲気の新宿や銀座を感じました。

日本の戦後は経済の発展が著しく、人は便利さと欲望を謳歌してきました。欲しい物は即座に手に入る。

80年代はバブル真っ最中、「一億の日本人全てが商売人になって奔走している。」と、ある高名な大学教授が言いました。しかしこれらの意見は、当時少数派であり、良識ある人達は「これではいけない」と警鐘を鳴らしていました。結局バブルは崩壊し日本経済は大きく落ち込みました。そんな閉塞感のある1999年に一の宮巡拝会は結成されたのです。

人は時に四国巡礼や熊野詣など聖地を訪れてみたいと感じることがあります。

日頃の多忙な仕事を離れ、歩くことで自分を見つめ直し日常からかけ離れた時空のなかで、いにしへの祈りの道をたどることが現在は忘れられているのではないかと思います。経済一辺倒の現代に大きく揺さぶられたこの度の大震災。「本当に人は何を求めて生きて行くのか」を再認識させられた思いです。

一の宮巡拝会 代表世話人 関口行弘



鹿島神宮の日本一を誇る石造りの鳥居は、本震で傷が入り、30分後の鹿島灘沖の二度目の地震で倒壊したと聞きました。その鳥居の跡地には今、盛砂が結界されて、自然と調和した厳かな雰囲気を見せている。

平成23年5月1日 撮影

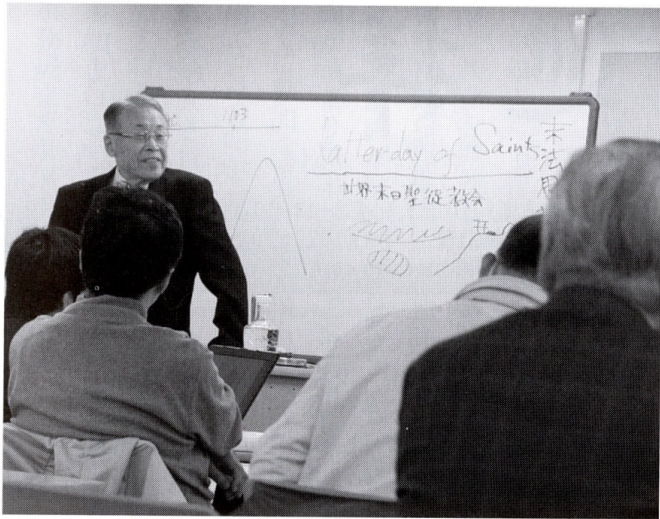
入会を希望する方は各事務局へご連絡ください。

一の宮巡拝会本部事務局

〒666-0111兵庫県川西市大和東2-13-10 創房関宮(有)内
 電話：072-791-5158 ファックス：072-791-5159
 E-mail：junpai@sekinomiya.com

一の宮巡拝会東京事務局

〒111-0055 東京都台東区三筋1-12-12(株)アドワーク内
 電話：03-5823-3901 ファックス：03-3865-2135
 E-mail：shio0369@crocus.ocn.ne.jp



◆初の一の宮カルチャー講座始まる

去る4月19日午後1時から2時半までの90分、栄中日文化センター(名古屋)で「一の宮の魅力」と題した初めてのカルチャー講座が開講しました。

講師は一の宮巡拝会顧問で「一の宮ノオト」の著者齋藤盛之先生で、一の宮の成立、特徴などを詳しくお話して頂きました。この一の宮講座は教室で3回の講義が行われ、4回目の最終回は実際に一の宮神社にバスツアーでお詣りするということです。講義終了後は質疑応答があり様々なご質問がありました。既に一の宮巡拝を始めている方や巡拝会の御朱印帳を持参された方など参加者は様々でした。

水墨画で一の宮の個展を開催

大阪・堺市に在住の水墨画家 本多英五郎氏が4月19日から4月24日まで堺市文化会館ギャラリーで珍しい水墨画の個展を開きました。ギャラリーの全面には30号の大きさの絵が豪華に飾られ、圧倒的な迫力で来場者を感動させました。本多氏は10数年前にリタイアして9年前から水墨画を始めたそうです。凝り性の性格(奥様のご発言)が幸いしてか、水墨画の公募展で入選や入賞を果たし急激に腕を伸ばして、現在ではプロ級に成長されました。会場には沢山の方々が来られましたが、大鳥神社の宮司様や坐摩神社の神官の方々も来場され大いに賑わいました。



橋三喜と一宮巡詣記抜粋の成立について

塩原 輝昭

『一宮巡詣記』十三巻を著した橋三喜は寛永十二年(1635年)に肥前国平戸で生まれ、吉田家の学統を引く駿河総社(浅間神社)神主、志貴宮内少輔昌興に学び、江戸浅草に出て神道講釈を行い、延宝三年卯年(1675年7月16日)～元禄十年(1697年9月15日)あしかけ23年間を費やして諸国一宮六十八ヶ国を巡詣し、元禄十六年(1703年)3月、六十九歳で没した。武蔵国足立郡三室郷氷川女體神社の近く、武笠神主家墓地内に、交遊の深かった神主宮内之豊雄や嘉隆の師として「一樹霊神」と刻まれた墓碑の下、今もひっそりと眠っている。

信念の神道家、橋三喜没からおおよそ20年後の享保七年(1722年)磯波翁こと岡田正利によって一宮巡詣記が抜粋書写しまとめられた。橋三喜が諸国を巡詣して書いた十三巻の巡詣記を巻一から六を一冊上巻とし、巻七から十三を一冊下巻として、上下二巻に抜粋書写されて後世に残されたと伝わる。

正利が三喜の嫡男、橋四平と知り合いであった縁で書写が実現したらしい。本書では資料として第三章に掲載した国会図書館蔵の原文は、したがって史料名として「一宮巡詣記抜粋」が適当だと判断されている。



平成23年3月9日 氷川女體神社で、『橋三喜』発刊上梓祭が斉行され祭典後、もとに戻った「一樹霊神」の奥都城に詣で改めて偉大な先駆者の足跡に頭をたれたのである。

巡詣記の内容について

塩原 輝昭

諸国一宮巡詣過程について巻の構成を検討してみると、大きく三つの時期に分けられ、さらに自宅への帰宅を一回の旅と数えると上巻では四回、下巻では一回の合計五回の旅に区分ができる。

第一期・・・第一回(巻一・二)、第二回(巻三)、第三回(巻四・五)、**第二期**・・・第四回(巻六)、**第三期**・・・第五回(巻七～十三)で下巻全体に当たる。

第一回は、延宝三年(1675年)7月16日、40歳の折に生まれ故郷の平戸から出発して、肥前・筑後・肥後・日向・大隈・薩摩を巡り、長崎に一ヶ月半ほど滞在して平戸に戻り、年越し後に対馬・壱岐へ、壱岐では半年あまり式内社の調査に費やし、筑前・豊前・豊後を11月末までに巡り終え、九州巡詣を完了した。ここから四国に赴く予定だったが「さわることどもありて」大阪へ、そして江戸浅草の我が家へ帰った。

第二回は、喪の明けるのを待っていたかのよう一年後、延宝五年(1677年)11月に浅草を発ち、一ヶ月余り江戸近郊の安房・上総・常陸・下総を廻り、浅草で年を越した。**第三回**は、延宝六年(1678年)4月、春になってから下野・陸奥・出羽・越後を経て佐渡へ、大願寺・相川・昨日浦では船待等ありて、延べ45日間とどまり、柏崎から野尻を経て善光寺へ、碓氷峠を越え武蔵を通り、四ヶ月弱で帰宅し年を越した。**第四回**は、第三回の帰宅から九年後の貞享四年(1687年)春4月、初めに富士登山をし、それから甲斐・駿河・相模を廻る三ヶ月の旅をして浅草に戻った。上巻に当たる巻六までは数回の旅に分けて、あちこちで滞在し、中臣祓・六根祓・神代巻などを講じた様子が記されゆとりが覗える、続く下巻の旅ではそのようなゆとりはなくひたすら残りの諸国一宮を志した一年三ヶ月の巡詣だったようだ。

第五回にあたる旅は、前回から9年後の元禄九年(1696年)6月、三喜が六十二歳の旅だった。上野・信濃・越中・能登・加賀・越前・若狭・丹後・但馬・因幡・伯耆の一宮へ行き、出雲では一宮の他

数社へ参詣、日御崎に十日ほど滞在、出雲を拠点に隠岐・石見へ出向いた。引き続き安芸・周防・長門を経て平戸に到り年を越し、翌年春から備後・伊予・土佐・阿波・淡路・讃岐・備前・備中・美作・播磨へ行き、大阪中之島屋敷に一週間滞在、さらに河内・摂津・和泉・紀伊・大和・伊賀・志摩・伊勢・近江・山城・丹波を巡詣した。京都において吉田家より神服を賜わり、兼連と様々を語りつつしばらく留まり、江戸への帰路についた。帰途に美濃・飛騨・尾張・三河・遠江に立ち寄り、伊豆を最後にすべての一宮への巡拝を終え、元禄十年(1697年)9月15日浅草の我家に帰宅した。

このように、三喜が全国一宮巡詣を成し遂げるには、二度に渡って十年近い中断(おそらく巡詣をするための準備等々)を経ており、上巻と下巻の旅では様相がまったく異なっていたことと思われる。



待望の書、発行

諸国六十八ヶ国の神々を、日本人として最初にくまなく参詣し、その感動を『巡詣記』として遺したのが、橋三喜である。

橋三喜は、寛永十一年(一六三三)、肥前国(現長崎県)の平戸の平戸七郎宮の室司の息子として生まれ、そして延宝三年(一七五二)四十七歳の折、全国一宮巡詣の志を立てて平戸を出立し、二十三年間をかけて巡詣の志を完結した。

全国二の宮調元祖
信念の神道家
橋三喜
郡順史

一の宮巡拝会編

定価 2,500円(税込) 上製本B5版 298頁(送料別)
◎送料 1冊→500円 2冊→800円 3冊以上→1,000円
※郵費—一部地域は追加送料がかかります。

讃辞

小を巡礼の円運動がたいに七セ形を描いて入る円運動(とらなまてい)、日本人の意が本教の信仰心が育まれていたのではないかと思うのです。

宗教学者 山折哲雄

情報がない時代、徒歩で巡拝を実行した。本書の原典は、江戸時代の橋三喜が二の宮の参拝された後、そののちの周辺の寺院や由緒ある道跡、名所も資料を見物し、参拝をしていくと行きます。橋氏の気迫とその執念と心意を感じてきた。

全国宮司会長
尾張四宮 直津田神社 宮司 飯田清春

一の宮巡拝は、今日の様々な問題の解決のヒントを我々に与えてくれるだろう。また、日本の基調らしさを再確認していただきたいと思う。

一の宮巡拝会 代表世話人 関口行弘

江戸時代の巡詣が如何に困難な行程で生じたか、橋三喜の執念と強い信念と非凡な性格からの宮巡詣の道程を伝えてくれた。第二章の寸釈を基に付した原文訳は貴重な資料になると思う。

橋三喜 編集委員 塩原輝昭

告知

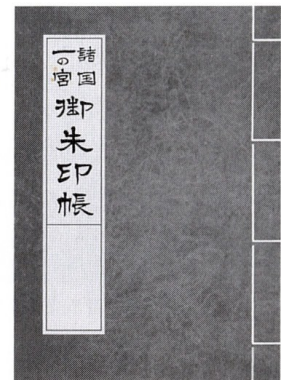
三月二十日(二十一日)に実施を予定していた関東ブロック主催の下野国一の宮、日光・宇都宮、両二荒山神社正式参拝と橘三喜発刊上梓報告祭の計画が三月十一日に発生した東北、関東大地震により交通事情悪化で中止の止む無きに至りました。参加予定者の皆様に遅ればせながらお詫びを申し上げます。又、五月第四土・日に予定しておりました諏訪大社での全国交流会も、準備の途中で中止せざるを得ない状況に至り会員諸氏へ深謝申し上げますと共に、この度の大震災の事情を鑑みご理解いただきたく存じます。今後の巡拝会の活動に変わらぬご協力を賜りますようお願い申し上げます。

本年十月下旬に全国交流会及び近畿ブロック交流会を開催したいと思います。播磨国・伊和神社から但馬国・出石神社と粟鹿神社を巡拝する計画が進んでおります。追って詳細計画が纏まり次第、皆様へご案内申し上げますのでご参加くださいます様お願い致します。尚、三月の関東ブロック交流会申込者で参加費を納入されている方が、今回の交流会へ参加される場合、参加費に充当させて頂きます。参加されない方は、返金の為の振込先を本部事務局までFAXでお知らせください。

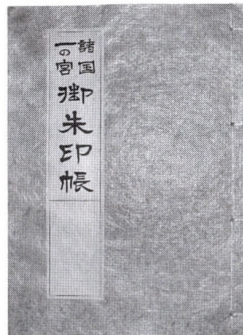
ご購入希望者は東京事務局まで

全てB5版・軽量で携帯に便利、墨書きも吸い込みが良く速乾性にも優れ好評です。

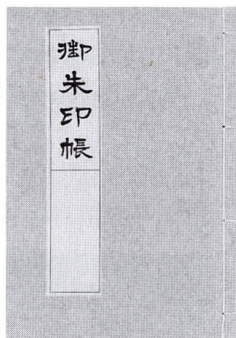
御朱印帳 和紙シリーズ



斐伊川和紙(奥出雲三刀屋・手漉き)
一の宮・神社名・祭神名入り
定価一万五千元(送料別)
残部僅少(白紙版も有)



四国和紙・楮笹ヶ峰
一の宮・神社名・ご祭神名入り
▼定価七千元(送料別)



▲四国和紙・楮笹ヶ峰
本文全て白紙版
定価六千元(送料別)

- 一宮ノオト
斎藤 盛之著 思文閣出版 二二〇〇円
 - 日本六十八ヶ国一宮巡歴記
生谷陽之助著 日経大阪PR 一八〇〇円
 - 別冊一の宮巡拝 創刊号
一の宮巡拝会編 二〇〇〇円
 - 信念の神道家 橘三喜
郡 順史著 一の宮巡拝会 二五〇〇円
 - 全国一の宮巡拝のすすめ改訂・二十三年版 三〇〇円
 - 全国一の宮参拝参考資料 初版 一五〇円
 - 全国一の宮神社所在地地図 初版 三〇〇円
- 送料別

「全国一の宮会」編 公式ガイドブック 全国一の宮めぐり

一の宮神社の神職で構成されている『全国一の宮会』飯田清春会長(尾張国一の宮真清田神社宮司)、事務局(天和国一の宮大神社内)で平成二十年十二月に発行された公式ガイドブックも、現在は第三版となっており一部修正されている部分もあります。当会の「一の宮巡拝のすすめ」最新版(本年三月発行)と合わせ活用して頂けたら幸いです。

尚、公式ガイドブックは一の宮神社と巡拝会東京事務局のみで頒布しており、一般の書店では購入することが出来ません。全国一の宮神社の社頭でお求めください。神社にない場合は左記東京事務局へお問合せ下さい。



頒布価 一、〇〇〇円(送料別)
問合せ先
一の宮巡拝会東京事務局
〒二二一〇〇五五
東京都台東区三筋一十二
(株)アドワーク内
電話 〇三三五八三三三九〇
FAX 〇三三八六五二二三五

平成二十三年度 会費納入のお願い

巡拝会の年度は、ご入会された月日ではありません。毎年一月が更新月となっております。本年度の更新が未だの方は左記のお振込み先から郵便振替にて更新して頂きたくお願い申し上げます。

会報・その他刊行物等、会運営の原費となりますのでご協力ください。

- 一の宮巡拝会本部事務局 創房閑宮(有内)
〒六六六〇二一 兵庫県川西市大和東二丁三十三
電話 〇七二七七九一五二五八
FAX 〇七二七七九一五二五九
- 一の宮巡拝会東京事務局(株)アドワーク内
〒二二一〇〇五五 東京都台東区三筋一十二丁二二
電話 〇三三五八三三三九〇
FAX 〇三三八六五二二三五
- 入会金及び会費について
一般維持会員 年会費 三〇〇〇円
賛助会員 一口三〇〇〇円(何口でも可)
寄付金 お志し ※常時受け賜ります。薄謝謹呈
- 会費等お振込み先
郵便振替(大阪) 〇〇九九〇一五八二五二五